

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.51

2017年
7・8月
合併号

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

『沖縄と連帯するとつとりの会』結成 ～記念講演と島唄・琉舞のつどい～ を開催



講演する仲里利信衆議院議員と参加者のみなさん

この「会」の短期間の取り組みのなかで、多くの参加者が功を成した。鍵はひとつ

もう22年も前になるのか、と思います。1995年10月21日、米兵の少女暴行事件に抗議して、「日米地位協定の見直しを要求する沖縄県民総決起大会」が開催されました。沖

縄に住む娘とともに私も参加しました。その大会で太田昌秀知事は、幼い少女の人としての尊厳を守れなかったのは痛恨のきわみ、深く謝罪する、と述べました。つづいて

沖縄はあきらめない、屈しない！

共同代表 石田正義

私が参加したこれら二つの県民大会の間に大きな事件がありました。2004年8月13日に、かつて娘が学ん

だ沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落しました。幸いにも学生や住民への被害はなかったのですが、米軍はただちに出勤して、大学関係者や沖縄県警の立ち入りを阻止したのです。私は大きな衝撃を受けました。沖縄では基地の外でも国の主権が及ばないことを知りませんでした。これは沖縄が米国の植民地的な存在であることを意味していま



この会の結成の経緯については、革新懇、新婦人が中心となって行った沖縄平和ツアーに参加した皆さんや沖縄基地問題により強い関心を持っている方々に呼びかけをし、結成準備会を立ち上げ、「会」結成の趣旨と沖縄の現状について意見交換を重ねながら結成総会に向けて取り組みを進めてきました。

最後に、オール沖縄の国会議員、仲里利信さんのやさしい語り口で語られる記念講演「オール沖縄への歴史を語る」を聴き、沖縄の厳しい現実と沖縄の民意を無視した政府の暴挙に対し、改めて「沖縄への連帯」を共有しました。

「会」の結成は、鳥取県内に止まらず、全国的にも意義のあることを確認しながら、9条の会などをはじめとした県内の多くの民主団体に働きかけを行ったこともありますが、一番の成功の要因は、沖縄県の皆さんの民意を無視した政府の姿勢に対し、沖縄県の皆さんの不屈の闘いに大いに共感し、連帯と支援が広

がっていること。また、結成総会が、安倍総理の5月3日の改憲発言の後の催しであったことも、危機感を持った多くの参加となったのでは、とも感じています。

今後、定期的に「会」運営委員会を開催し、運営体制の充実と取り組みの具体化への議論を進めていきます。(沖縄と連帯する とつとりの会事務局)

長い年月にわたる沖縄は、米国と日本政府によって二重の植民地的支配におかれていたという意識の底流とそれへの反発から、前記の「沖縄はあきらめない」「沖縄は屈しない」と叫び続けていることを、私たちは重く受けとめなければなりません。今はまだ受け身と忍耐の表現にとどまっていますが、いつの日かこれが能動的で前向きな姿勢に劇変することを私は覚悟していま



サンシン演奏と島唄を披露するザワワズのみなさん

市民と野党の共闘を実現しよう

鳥取県議会議員 長谷川 稔

総選挙での野党共闘をめざし、参院選の経験から提起したい。

(一)一年前の私は、「福島浩彦の活躍を期待します」という名刺を持って、初めて選挙区外の三朝町、湯梨浜町を文字通り戸別訪問していた。福島氏のパンフがいわゆる「しおり」でなかったこともあり、私が候補者と間違われることも少なくなかった。自分としてはもう少し互角に迫れるかと思ったが、エンジンの掛かりは遅くてもさすがに馬力の違う組織力を見せつけられることになったが、先ずはよくぞ候補者を立てることができたものだ。最近の民進党は参院選は比例区が主眼であり、衆議院でも一区は見送りが常態化している。

そして、統一候補者を立てることはできたが、選挙戦そのものは、各々の党が自らの候補者として最大限の取り組みとなったかには疑問が残った。各政党の足し算をエネルギーとする前に、前向きと言えなかった。

また、選挙前の候補者との話し合いでも、当選すればどの政党・会派に属するかなどの応答がみられるように、何としても一議席を得る(自民党の議席を減らす)執念が弱か

った。自民党は合区ということ、それでなくとも一議席が減るといことでの必死さがあつた。合区解消論はどうしても鳥取県の声が消させないということ、心をつかんでしま

論理的ではなくても叫ばざるを得ない選挙であった。ともあれ県内で唯一、自民候補を上回った南部町での取り組みから教訓化したい。

(二)今から続けること。総選挙はいつになるかわからないだけに、早く統一候補者を決めることだ。統一候補でなければ勝機はないことは民進党もわかっているはず。統一候補として、初めて選挙民にも期待感が生まれることに。

それには社民党が打ち出している方針に賛同し、その橋渡しを期待したい。そのうえで共産党も民進党への野党共闘を働きかけてほしい。そのためにも共謀罪を許さない一日共闘など繰り返して、模索する積みあげの中で信頼関係を構築していく必要がある。

(三)東京都議選の結果、自民党安倍政治への怒りは都民ファーストの圧勝と自民党の惨敗をもたらした。一方で共産党は現有議席を上回る19議席と大健闘

した。民進党は選挙直前の大量離党もあり5議席にとどまった。世田谷区で1議席を目指した社民党は届かなかった。この中には新社会党、自由党が、共産党、社民党を支援する形もみられた。都議選

の大半が複数区で、選挙協力はそのめないにかにあって、民進党を除く他の野党が、共産候補を中心に(一部生活者ネットワーク、社民を含む)支援が取られたことを確認したい。

激動の時代と革新懇の役割 東部地区革新懇学校を開催



東部地区革新懇は4月22日、「現在の社会情勢や政治状況の下、改めて革新懇運動への理解を深め、革新懇の役割を考える」ことを目的に東部地区革新懇学校を開催しました。

変える。激動の情勢と革新懇の役割とは、②革新懇をどうつくり広げるか、全国の経験に学ぶ」をテーマに学習を行いました。

増村さんの「市民と野党の共同は、まだまだ広大な『のびしろ』がある。多彩な勢力の団結こそが力であり、魅力ある政策と希望を届ける取り組みを進め

全国革新懇総会に参加

5月20日、全国革新懇総会に参加しましたので報告します。総会では、特別発言として共産党の志位委員長が、9条改憲を公然と、しかも総裁という立場で、日本会議系の集会あてに期限を切って打ち出した事を強く批判。歴代首相でこれほど憲法に対し慎みを知らない首相はなかった。また、安倍一強といわれる「もの言えぬ国」になろうとしている。森友、加計学園にみられるように国政が私物化されている。野党と市民の共闘を大きく発展させていただきたい。大事なものは草の根からの闘いと訴えました。

- 参加者からの主な発言は次の通りです。
- * 一点共闘、政策で地域で住民を揺り動かす。本気の共闘はリスpektが大事(千葉)
- * あらゆる分野で共同を。闘いの現場に行き、学び、共に闘う。共産党候補が参院選で実現後も、労組、政党関係者に革新懇ニュースを拡大(香川)
- * 市民と野党の共闘で、新潟知事選の出口調査で支持政党を固めた上で無党派6割、保守層2割で成果を上げた分析がある。保守的住民・運動家の参加を含めて(革新という枠でなく広く世間をみる)「安倍政権だけは許せない」をキーワードに野党は共闘、市民連合づくり(大阪)
- * 基地の撤回を粘り強く、しぶとく、あきらめないことで必ず勝利する(沖縄)
- * 社会を見る目のモノサシを、生命(平等)にとってどうか、憲法からみてどうか。担い手づくりを(全日本民医連)
- * 政府はTPP対策を外圧として農業構造改良をすすめ、家族農業を追い込む。農協は地域のインフラであり、農協が倒れたら地域はもたない(農民連)
- * 企業活動は職員の安全を図る平和産業であることが必須。良心的な経営者とも手を携える。「働き方改革」で月100時間(の時間外労働を)を合法化。

要求を真ん中に据えて広範な国民の声に応じて行動しよう。「9条の会」や市民連合で「救国のうねり」をつくっていこう。

(鳥取県革新懇世話人 長谷川 稔)

憲法「改正」を考える

鳥取県革新懇世話人会で中崎弁護士が講演

鳥取県革新懇は7月22日、北栄町で世話人会を開催しました。

世話人会では、安倍首相の「2020年憲法「改正」の施行」発言などを受けて、県弁護士会憲法委員会委員の中崎雄一弁護士を講師に、9条を中心と

した憲法「改正」問題について学習しました。中崎氏は、「そもそも憲法とは「なぜ憲法が必要なのか」と前置きしたうえで、立憲主義の下での憲法の根本的価値について、国民多数の声に従ってつくられた法律だから正しいと考えそれに従うが、国民多数の声であっても間違っていることある」とし、多数意見(法律)でも奪えない価値の憲法であると説明しました。

さらに、来年の国民投票は、「可能性としてはある」とし、安本法制下での自衛隊を支持するのかが支持しないのかが問われることになる。問題点を把握できないまま投票に臨むことになるので、投票する機会を増やし、学習の機会を増やすことが大事になると結びました。



講演する中崎弁護士

そして、集団的自衛権や自衛隊の憲法上の問題点とされる立憲主

(革新懇事務局)